

松山南高等学校 令和2年度「データサイエンスI」自己評価用ルーブリック（プロセス評価）

下表は、DS I に対する自身の取組を現時点で振り返り、自己評価するための評価規準です。2～4いずれかの評価をしてください。3の記載内容を標準的なレベルとします。特に達成度の高い、または低い項目は、それぞれ5、1と評価してもよい。

		評価 観点	(5～) 4	3	2 (~ 1)	取組 評価
			標準的なレベル (3) を越えて達成できた	標準的なレベル (3) をおおむね達成できた	標準的なレベル (3) を達成したとはいえない	
1	P (問題)	課題発見	データによって地域の現状を認識し、課題発見・課題解決のための提案ができた。	データによって地域の現状を認識し、調査可能なテーマを設定することができた。	課題意識がうかがえない、あるいはデータによる現状認識に基づかない発想である。	
2	P (計画)	計画・準備と実施状況	主体的かつ計画的に取り組み、発展的な活動を実施することができた。	計画的に取り組み、DS I の時間を有効に活用して、期限までに完成の見込みである。	研究に対する見通しを欠き、DS I の時間を活用できなかった。	
3	D (データ)	研究方法の妥当性	目標を達成するために、客観性の高いデータを適切に収集できた。	目的に照らして必要なデータを収集することができたが、客観性の確保などの点で努力を要する。	データを収集したが、目的の達成には不十分であった。	
4	A (分析)	データ分析	データを的確に分析し、課題解決のための提案に説得力を与えることができた。	データを分析し、考察することができたが、課題解決のための提案との関連が不十分である。	データをまとめたが、分析が不十分であったり、問題解決のための提案まで至らなかったりした。	
5	C (まとめ)	結論	問題の意味を広く認識し、結論をもとにさらに広げようとした。結論を明確に説明できた。	結論を適切にまとめることができた。	不十分な点があるが、おおむね結論をまとめることができた。	
6	総合的 達成度	興味・関心	地域課題への高い意識を持ち、研究テーマについて仮説と検証を繰り返しながら探究できた。	新たな課題を発見するなど、関心を持って研究テーマに取り組むことができた。	仮説に対して一つの解答を出すにとどまるなど、進んで研究テーマを深めることができなかった。	
7		創意工夫	これまでの実践例との比較を行って独自の提案をするなど、オリジナリティのある研究ができた。	データの切り口を工夫したり、自分なりに調査を行ったりすることができた。	データや分析手法に工夫が見られなかったり、既存のグラフの引用にとどまったりした。	
8		役割分担と協力	自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、グループの研究に貢献した。	自分の役割はおおむね果たすことができたが、他のメンバーへの貢献は十分ではなかった。	自分の役割を果たせず、他のメンバーに頼りきりであった。	
コメント						計

愛媛大学課題研究評価ルーブリック(簡易バージョン)Ver1.0を改変, 統計数理研究所統計的問題解決評価ルーブリックSTART(高校版)参照

班名

年 組 番 氏名

評価日 月 日